株主の皆さまへ

ドコモ通信

春号
2004年3月

Vol. 20

Credit Card

モバイル・フロンティアへ。

株 主 の 皆 さ ま へ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。「ドコモ通信」第20号をお届けするにあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

今年度より新たに四半期決算を実施しており、2003年度第3四半期決算を2月に発表いたしました。携帯電話市場の競争が激化する中、2003年4月から12月の9ヵ月通算で営業収益3兆8,283億円、営業利益8,430億円、当期純利益4,942億円と業績は堅調に推移しております。

また、「FOMA」の契約数は、1月29日に200万契約を突破し、今年度末の契約数目標を240万契約と、さらに上方修正いたしました。これまでをホップ、ステップ、2004年は「FOMAジャンプの年」と位置づけ、「FOMA 900iシリーズ」発売による端末ラインナップの充実、地下鉄の駅なども含めた屋内外のエリア拡充、サービス品質の更なる向上、アプリケーションの充実を図り、「FOMA」の着実な普及に努めてまいります。

なお、1月には非接触ICカード技術「FeliCa(フェリカ)」搭載の携帯電話を利用した新たなモバイルサービスの実現に向けて、ソニー株式会社と新会社を設立しました。今後、競争力の一層の強化を実現するために、「FeliCa」と「iモード」等を活用して携帯電話を日常生活により近づけ利便性を高めるなど、サービスの更なる革新と向上をめざしていきたいと思います。

今後とも企業価値の最大化を図るべく全力を尽くしてまいりますので、株主の皆さまには一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2004年3月

代表取締役社長

立川 敬二

FOMA 900iシリーズ登場

「究極のiモード携帯」

FOMA 900iシリーズ

iモード事業本部
iモード企画部長
夏野　剛

ドコモはFOMAの新シリーズとなるFOMA「900iシリーズ」を開発し、販売を開始いたしました。この900iシリーズは、ムーバ505iシリーズを超える「究極のiモード携帯」として開発されたものです。名称も、これまでのFOMAに使われていた4桁の番号を3桁に一新し、505iを超える意味から「900i」としました。

FOMAは、2001年に世界初の第三世代携帯電話として開発されました。以来、私どもはさまざまなことを学び、その経験をフルに活用して900iシリーズを完成させました。端末の仕様やコンテンツ等のサービスにおいて、名実共に世界最強の携帯電話となったと自負しております。

現在900iシリーズでは、幅広いユーザ層を対象とした5機種が展開されています。先進的な機能や洗練されたデザインは、手にする人一人ひとりにご満足いただき楽しんでいただけることでしょう（詳しくはP.3をご覧ください）。

全機種にメガピクセルカメラ、QVGA液晶を搭載し、さらに進化したiモードサービス、デコメール、iアプリ、キャラ電など魅力あるサービスをご提供いたします（詳しくはP.4をご覧ください）。

FOMAは、2004年1月29日に200万契約を突破し、サービスエリアも、2004年3月末までに全国人口カバー率99%を達成する見込みです。また、地下鉄の駅等でもFOMAをご利用いただけるよう、屋内エリアの拡大も進めております。

今後もより便利で魅力的な携帯電話をめざし、新機種の開発ならびにサービスの向上に取り組んでまいります。

FOMA「900iシリーズ」ラインナップ

個性的な5機種に加え、ムービースタイルの「P900iV」とタッチパネル液晶搭載の「F900iT」も、今後発売予定です。

セキュリティも安心な指紋認証機能

F900i　丸みを帯びたシンプルなデザイン。指紋センサーを搭載し、指をあて、スライドさせるだけでセキュリティロックを解除。専用ケーブルを使えば、電話帳等のデータをパソコンと共有可能。

「刀」をイメージしたこだわりのスタイル

N900i　美しい曲線「アークライン」が印象的な先進性のあるデザイン。シリーズ最軽量でありながら、200万画素の高性能カメラを搭載。名作ゲーム「ドラゴンクエスト」を内蔵。

カスタムジャケット採用の斬新なデザイン

P900i　10種類のパネルを着せ替えられる「カスタムジャケット」に対応のデザイン。カメラはオートフォーカスで、接写時も美しい画像を撮影。miniSD™カードに動画を保存し、対応するテレビで再生可能。超大作ゲーム「ファイナルファンタジー」を内蔵。

TVにつないで静止画・動画を楽しめる

D900i　アルミニウム素材を活かした光沢感のあるデザイン。カメラは、自分撮りが簡単なSPIN EYEを搭載。専用ケーブルでテレビにつないで、静止画や動画を再生可能。

シリーズ最大の202万画素カメラ搭載

SH900i　シリーズ最大の202万画素カメラとオートフォーカス機能で、よりリアルな撮影を実現。パソコンからminiSD™カードに保存したビジネス文書等のデータを、そのまま閲覧可能。

FOMA900iサイト

900i FOMA×i-mode

詳細な製品一覧、サービス内容、CMの紹介等をこちらからご覧になれます。

http://900i.nttdocomo.co.jp/

左下のバーコードを読み取るだけでiモード対応サイトをご覧いただけます。

※900iシリーズ･505iSシリーズ、F505iGPS、F505i、SH505i、SH251iでご利用が可能です（3月末現在）。
※読取方法は、各機種の取扱説明書をご覧ください。
※傷、汚れ、破損、光の反射などによっては読み取れない場合があります。

進化を遂げたiモード

900iシリーズでは、505iを超えた魅力的なサービスが登場。iモードサービスが、より楽しく便利に進化しました。

楽しくメールをデコレーション

「デコメール」　メールの背景色や文字の色・大きさを変えて、楽しいメールを作成できます。アニメーション画像や写真が添付できるので、心のこもった個性的なメールを送ることができます。

もはやゲームケータイ

「パワーアップiアプリ」　iアプリのサイズ拡大によって、携帯電話で本格的なゲームが楽しめるようになりました。大人気の超大作ゲームの「完全移植」を実現しました。

ドラゴンクエスト

あなたに代わってキャラが伝える

「キャラ電」　テレビ電話の使用時に、自分の映像を好きなキャラクターに置き換えられます。ボタン操作で動きや表情を変えて、さまざまな感情を表現することができます。

ポケモンひろば

動画もうたも着信に

「着モーション」　電話の着信を、「着うた™」はもちろん、iモーションの動画でお知らせします。コンテンツの数は約2万1,000と豊富。ドコモならではのものもお楽しみいただけます。

いろメロミックス

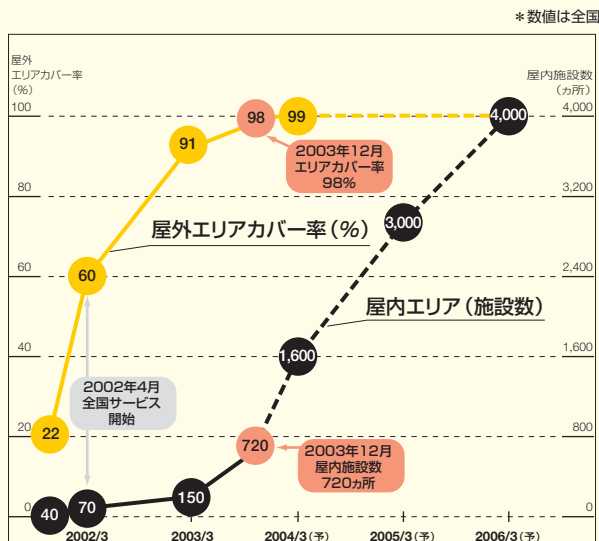
※画像はイメージです。

フラッシュがもっと表現豊かに

「100Kバイト対応 Flash™」　FOMAで初めてMacromedia® Flashを搭載しました。容量100Kバイトは505iの約5倍。アニメーション等がさらに豊かに表現され、よりサイトが見やすく、便利になります。

FOMAエリア展開の推進

FOMAは、2001年10月のサービス開始以来、2004年1月29日に200万契約を突破しました。それとともに、サービスエリアも2004年3月末までに全国人口カバー率99%を達成する見込みとなり、2004年前半には営団地下鉄の全地下駅(150駅)でもご利用いただけるよう、屋内エリアの拡大も進めています。

＊数値は全国

特 集　新しいライフスタイルを実現する、ドコモのモバ

FeliCaとは？

　FeliCaはソニーが開発した、カードの抜き差しが不要な非接触方式のICカード技術です。JR東日本の「Suica®」をはじめ、多数の交通機関の乗車券や電子マネー等に採用されています。FeliCaの特長は、①かざすだけで、②瞬時にデータを送受信でき、③高い安全性を持ち、④1枚で多目的の用途に利用できることです。

携帯電話に搭載すると？

　今までICカード上だけで展開されていたサービスを、携帯電話を使って行えるようになります。さらに、ドコモのiアプリ®やネットワークを利用できるので、カード単体の機能を超えた、新しいモバイルサービスが実現します。

空港チェックインの事例

　全日空と協力し、携帯電話を利用した空港チェックインサービスをANA社員向けに試行しています。まず、空港に行く前に、携帯電話で事前チェックインを行い、携帯電話に便名等の情報を取り込みます。空港では、自動チェックイン機に携帯電話をかざすだけで、搭乗券を受け取ることができるようになります。

FeliCa搭載の「iモード」対応携帯電話を利用したチェックインサービス
全日本空輸株式会社様

イルサービス

ケータイ1つで何でもラクラク!

VISAッピとは？

「VISAッピ（ビザッピ）」は、携帯電話を使ってVISAカードのクレジット決済ができるサービスです。クレジットカードを持ち歩かなくても、赤外線通信機能のあるiモード対応携帯電話*を使ってお買い物ができます。

現在、2004年7月の本格的なサービス開始をめざし、実際の店舗において、モニター参加者による商用化に向けて試行サービスが行われています。

※ドコモのシリーズCM「ケータイ日記」の第5話「カニとの遭遇」篇でも紹介しました。

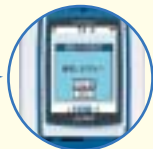
「VISAッピ」のご利用方法

1 まずは、カード会社に事前登録。
※「VISAッピ」のご利用は、赤外線通信に対応したドコモの携帯電話*をお持ちの方に限ります。

2 つぎに、ケータイへカード情報をダウンロード。

3 支払いは、ケータイからカードデータを赤外線送信するだけ。

このマークがあるお店でご利用になれます。
「VISAッピ」が使えるお店をcheck!

パソコンからは　http://www.visa.co.jp/e-mailclub
「iモード」からは　http://www.visa-e-mailclub.com/i/visa-ppi/

パスコードを入力　→　赤外線通信を選択　→　クレジット決済端末にカードデータを送信

＊504i、504iS、505i、505iS、FOMA2051、2701、2102Vでご利用が可能です。

※「FOMA/フォーマ」「iモード」「iアプリ/アイアプリ」「デコメール」「キャラ電」「着モーション」「カスタムジャケット」はドコモの商標または登録商標です。　※「ドラゴンクエスト」「ファイナルファンタジー」は、株式会社スクウェア・エニックスの登録商標です。　※「miniSD™」は、SDアソシエーションの商標です。　※「着うた」is a Trademark of Sony Music Entertainment (Japan) Inc.　※FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。　※FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。

第3四半期(9ヵ月通算)決算のご報告(米国会計基準)

連結決算の主なポイント

今年度から新たに四半期決算を発表しています。2003年度第3四半期(9ヵ月通算)の連結業績は営業収益、営業利益、当期純利益とも堅調に推移しています。

※財務数値につきましては、表示単位未満を四捨五入しています。また、会計監査人による監査は受けていません。

営業収益(売上高) 3兆8,283億円

携帯電話「mova」サービスから「FOMA」へ契約数の移行が進んだことから、携帯電話(mova)収入は2兆4,143億円となる一方、携帯電話(FOMA)収入は820億円となりました。また、パケット通信収入はiモードの利用がさらに拡大し7,728億円となり、営業収益は3兆8,283億円となりました。

営業利益 8,430億円

営業費用は、人件費1,875億円、物件費1兆9,196億円、減価償却費5,335億円などの結果、2兆9,853億円となりました。この結果、営業利益は8,430億円となりました。

当期純利益 4,942億円

持分法による投資損失36億円を含め、2003年度第3四半期(9ヵ月通算)の当期純利益は、4,942億円となりました。

連結損益計算書(要約)

区　分	2003年度　第3四半期 (2003.4.1〜2003.12.31) 百万円	2002年度　通期 (2002.4.1〜2003.3.31) 百万円
営業収益(売上高)	**3,828,273**	**4,809,088**
営業費用	**2,985,295**	**3,752,369**
(営業利益)	**842,978**	**1,056,719**
営業外損失	**7,014**	**13,751**
(税引前利益)	**835,964**	**1,042,968**
法人税等	338,034	454,487
持分法投資損益(▲損失)	▲3,645	▲324,241
少数株主損益(▲利益)	▲37	▲16,033
新会計基準適用による影響額	—	▲35,716
(当期純利益)	**494,248**	**212,491**

※1 2003年度第3四半期(9ヵ月通算)においては、2003年11月から「2ヶ月くりこし」サービス*を開始したことにより、月額使用料金に含まれる無料通話のうち1月以降に繰り越された分について収益の繰延処理を実施(営業収益繰延額195億円)。　*「2ヶ月くりこし」サービスとは、当月に未使用となった無料通話・通信分を翌月、翌々月に繰り越せるサービス。

※2 四半期財務情報の作成初年度のため、前年同四半期の数値は記載していません。

連結オペレーション実績

項目				2003年度 第3四半期 (2003.10.1～2003.12.31)	2003年度 9ヵ月 (2003.4.1～2003.12.31)	2002年度 通期 (2002.4.1～2003.3.31)
携帯電話		末契約数	千契約	45,366	45,366	43,861
		(再)iモード		40,335	40,335	37,758
		純増数	千契約	324	1,505	3,078
		(再)iモード		596	2,577	5,602
	PDC*1	末契約数	千契約	43,485	43,485	43,531
		総合ARPU*2①	円	7,730	8,000	8,120
		音声ARPU*3	円	5,800	6,040	6,370
		iモードARPU	円	1,930	1,960	1,750
		iモード単独ARPU*2①	円	2,190	2,250	2,110
		MOU*4	分	157	161	168
	FOMA	末契約数	千契約	1,881	1,881	330
		純増数	千契約	878	1,551	241
		総合ARPU*2②	円	10,270	10,210	7,740
		音声ARPU*3	円	7,010	6,850	5,050
		パケットARPU	円	3,260	3,360	2,690
		iモード単独ARPU*2②	円	3,220	3,290	2,340
		MOU*4	分	227	210	109
PHS		末契約数	千契約	1,627	1,627	1,688
		ARPU*2③、3	円	3,430	3,490	3,530
		MOU*4、5	分	95	102	116

※FOMA2003年度末契約者数見通しについては、240万に変更しています(2004年2月4日変更)。
携帯電話2003年度末契約者数見通しについては、2003年10月30日発表数値から変更ありません。

＊1 PDCは、別に携帯電話(mova)サービスと表しています。

＊2 ARPU(Average monthly revenue per unit):1契約当たり月間平均収入

①総合ARPU(PDC)=音声ARPU(PDC)+iモードARPU(PDC)

音声ARPU(PDC)　:音声ARPU(PDC)関連収入(基本料、通話料)／稼働契約数(PDC)

iモードARPU(PDC)　:iモードARPU(PDC)関連収入(基本料、通信料)／稼働契約数(PDC)

iモード単独ARPU(PDC)　:iモードARPU(PDC)関連収入(基本料、通信料)／稼働契約数{iモード(PDC)}

②総合ARPU(FOMA)=音声ARPU(FOMA)+パケットARPU(FOMA)

音声ARPU(FOMA)　:音声ARPU(FOMA)関連収入(基本料、通話料)／稼働契約数(FOMA)

パケットARPU(FOMA)　:パケットARPU(FOMA)関連収入(基本料、通信料)／稼働契約数(FOMA)

iモードARPU(FOMA)　:iモードARPU(FOMA)関連収入(基本料、通信料)／稼働契約数(FOMA)

iモード単独ARPU(FOMA)　:iモードARPU(FOMA)関連収入(基本料、通信料)／稼働契約数{iモード(FOMA)}

・iモードARPU(PDCおよびFOMA)は、iモードの利用の有無にかかわらず、それぞれPDCおよびFOMAのすべての契約者数に基づいて計算し、iモード単独ARPU(PDCおよびFOMA)は、それぞれiモードサービス利用者のみに基づいて計算しています。

③ARPU(PHS):ARPU(PHS)関連収入(基本料、通話料)／稼働契約数(PHS)

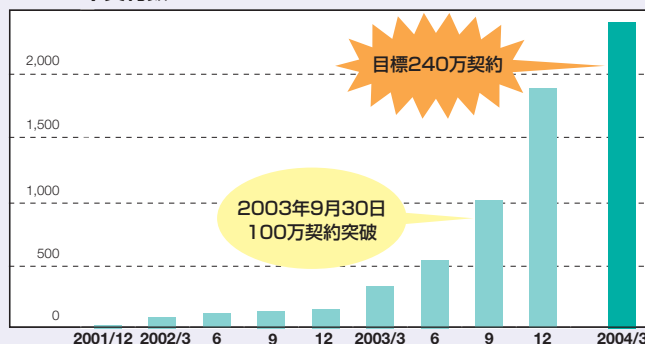
＊3 回線交換によるデータ通信を含みます。

＊4 MOU(Minutes of usage):1契約当たり月間平均通話時間

＊5 @FreeDの通信時間は含まれません。

※なお、各ARPU、MOU算出時の稼働契約数は以下のとおりです。

PDC、iモード(PDC)、PHS	:第3四半期実績	{(9月末契約数+12月末契約数)／2}×3ヵ月
	:9ヵ月実績	{(前年度末契約数+12月末契約数)／2}×9ヵ月
	:年間	{(前年度末契約数+当年度末契約数)／2}×12ヵ月
FOMA、iモード(FOMA)	:第3四半期実績	10月から12月までの各月稼働契約数【(前月末契約数+当月末契約数)／2】の合計
	:9ヵ月実績	4月から12月までの各月稼働契約数【(前月末契約数+当月末契約数)／2】の合計
	:年間	4月から3月までの各月稼働契約数【(前月末契約数+当月末契約数)／2】の合計

FOMA末契約数　(単位:千契約)

ドコモIR情報サイト

2004年2月4日に発表しました『2003年度第3四半期決算』の資料や決算説明会の模様は、こちらよりご覧いただけます。

http://www.nttdocomo.co.jp/corporate/ir/

株主さまへのお願い～「招集ご通知の電子メール受信承諾」手続きについて

当社は昨年より、株主総会招集ご通知を電子メールにより送付させていただくサービスを始めております。

つきましては、平成16年6月開催予定の定時株主総会において、より多くの株主さまに招集ご通知の電子メールによる受信をご利用いただきたいと存じますので、ご希望の方は、以下の要領によりお手続きくださいますようご案内申し上げます。

お手続きの要領

☞初めてご承諾される株主さま

❶「招集ご通知の電子メールによる受信」のご承諾手続きは、インターネット上の議決権行使サイトで行っていただきます。パソコンから、以下の議決権行使サイトにアクセスしてください。

URL： http://www.koushi.ufjtrustbank.co.jp/

❷ まず、ログインに必要な「お届出コード」の発行をお申し込みください。

「お届出コード」の発行申込手順

①議決権行使サイトの「お届出コード発行申込」をクリックの上、必要事項をご入力ください。

②入力内容をご確認の上、「送信」をクリックしてください。

③後日、「お届出コードのご案内」ハガキをご郵送させていただきます。ご案内ハガキに表示された「お届出コード」および「仮パスワード」をご確認ください。

❸「お届出コード」および「仮パスワード」ご確認後、議決権行使サイトにアクセスし、「各種お届出」をクリックしていただき、「お届出コード」および「仮パスワード」を入力の上ログインし、お手続きください。

☞すでにご承諾された株主さま

議決権行使サイトにおいて、承諾の取り消しや電子メールアドレスおよびパスワードの変更のお手続きを行うことができます。ご希望の場合は、左記のとおり「お届出コード」の発行をお申し込みの上、お手続きください。

■ ご注意

①「招集ご通知の電子メール受信承諾」のための「お届出コード」発行のお申し込みをお受けできるのは、平成16年4月末までとなります。お早めにお手続きくださいますようお願いいたします。

② 携帯電話を用いたインターネットによる「招集ご通知の電子メール受信承諾」はお取り扱いしておりませんので、ご了承ください。また、一部のシステム環境では、ご利用できない場合があります。

システムに関するお問い合わせ

UFJ信託銀行株式会社　証券代行部（ヘルプデスク）

● 電　　話：0120-663-166

（受付時間　9：00～21：00、通話料無料）

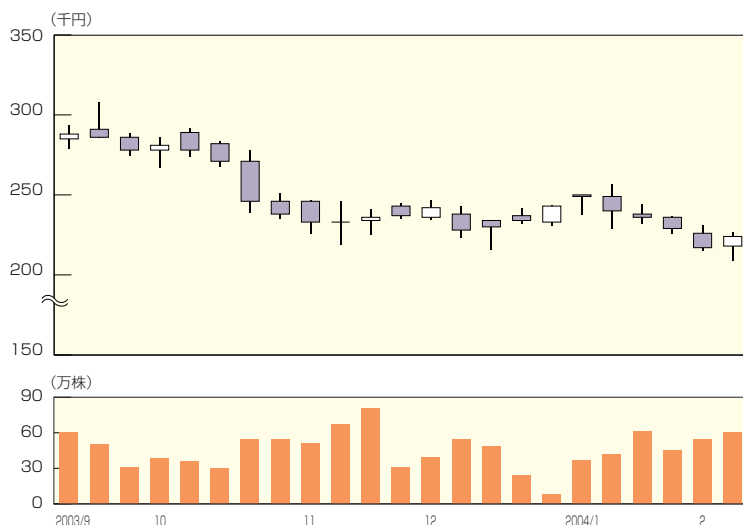
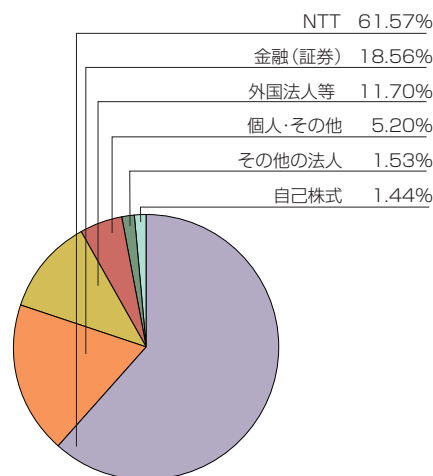
● 電子メール：daikohelp＠ufjtrustbank.co.jp

将来に関する記述等についてのご注意

本ドコモ通信に記載されている、当社グループに関連する業績予想、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価ならびに契約数や業績や配当の見通しなどといった、将来に関する記述を含む歴史的事実以外のすべての事実は、当社グループが現在入手している情報に基づく、現時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、予想を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を用いています。これらの記述ないし事実または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証や将来そのとおりに実現するという保証はいたしかねます。すなわち、これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性がありますが、その原因となる潜在的リスクや不確定要因は無数にあります。そのうち、現在想定し得る主要なものとして、以下の事項をあげることができます。

- 市場の需要の影響を受ける第三世代移動通信サービスを当社グループが期待どおりに展開できるか否か
- 種々の法令・規制・制度の導入や変更による悪影響があり得ることおよびこれに対して当社グループが適切に対応できるか否か
- 通信事業者間の料金設定権や接続形態に関する今後の枠組みの変更による悪影響があり得ること、およびこれに対して当社グループが適切に対応できるか否か
- 他の移動通信業者および他の技術との競争や変化の早い市場動向に対して当社グループが適切かつ十分に対応できるか否か
- 当社グループが獲得・維持する契約数およびARPU(1契約当たり月間平均収入)の水準が当社グループの期待に達するか否か
- 当社グループが使用可能な周波数および設備には限りがある中で、サービスの質の低下を回避し、顧客満足を今後とも得ることができるか否か
- 第三世代移動通信システムに使用している当社のW-CDMA技術やモバイルマルチメディアサービスの海外事業者への導入を促進し、当社グループの国際サービス提供能力を構築し発展させることができるか否か
- 当社グループの国際投資、提携および協力関係が期待どおりの収益や機会をもたらすか否か
- 現在損失を生じているPHS事業の業績が今後期待どおりに改善するか否か
- 迷惑メール等のiモードシステムの不適切な使用による顧客満足の低下、システム混雑等の悪影響を有効に回避できるか否か
- 当社の親会社である日本電信電話株式会社が、当社の他の株主の利益に反する影響力を行使することがあり得ること
- 無線通信による健康への悪影響に対する懸念が広まることがあり得ることおよびこれに対して当社グループが適切に対応できるか否か
- 地震、電力不足、ソフトウエア・機器の不具合等に起因するシステム障害が発生し得ることおよびこれに対して当社グループが適切に対応できるか否か
- 当社グループのネットワークシステムや携帯電話等を通じた通信その他の利用に対して、悪影響を及ぼすウィルス、サイバーアタック等に適切に対応できるか否か
- 日本国内外の経済、証券市場その他の状況の変化による影響があり得ることおよびこれに対して当社グループが適切に対応できるか否か

なお、潜在的リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんのでご留意ください。

株価・出来高推移

所有者別株式数構成比

(注)上記の構成比は、平成15年9月末の株主名簿および実質株主名簿に基づく数値であります。

ドコモの携帯電話、FOMA、PHSに関するお問い合わせ

ドコモの携帯電話、FOMA、PHSからおかけの場合

(局番なしの) **151** (無料)

0120-800-000

★ドコモのホームページ
http://www.nttdocomo.co.jp/

★ドコモの投資家情報ホームページ
http://www.nttdocomo.co.jp/corporate/ir/

コーポレートデータ

会社概要 (2003年9月30日現在)

社　　名 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
NTT DoCoMo, Inc.
本社所在地 〒100-6150
東京都千代田区永田町2-11-1　山王パークタワー
電話 (03)5156-1111(大代表)
設　　立 1991年(平成3年)8月
資 本 金 9,496億7,950万円
従業員数 5,898名
主な事業内容 当社は携帯電話事業、PHS事業、「クイックキャスト」事業を主な事業とし、その主要な営業種目は次のとおりです。

事業の種類	主要な営業種目
携帯電話事業	携帯電話(mova)サービス、携帯電話(FOMA)サービス、パケット通信サービス、衛星電話サービス、航空機電話サービス、各サービスの端末機器販売
PHS事業	PHSサービス、PHS端末機器販売
クイックキャスト事業	無線呼出(クイックキャスト)サービス、「クイックキャスト」端末機器販売
その他事業	国際電話サービス　等

業務区域 東京都　神奈川県　千葉県　埼玉県　茨城県　栃木県　群馬県　山梨県　長野県　新潟県
支　　店 丸の内　新宿　渋谷　多摩　神奈川　千葉　埼玉　茨城　栃木　群馬　山梨　長野　新潟

株式の状況 (2003年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数 191,500,000株
発行済株式の総数 50,180,000株
株主数 312,381名
大株主(上位10名)
日本電信電話株式会社
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)
メロンバンクトリーティークライアンツオムニバス
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルオムニバスアカウント
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託B口)
三菱信託銀行株式会社(信託口)
(注)当社の自己株式は上記には含めていません。

株主メモ

決算期 毎年3月31日
期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日
株式の名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社
公告掲載新聞名 日本経済新聞(注)
(注)当社は決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社のホームページ《http://www.nttdocomo.co.jp/》に掲載しています。

株券の名義書換、住所変更、配当金のお受け取りなどのお手続きはUFJ信託銀行本店または支店の窓口で承ります。

株式事務のお問い合わせは…

UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
電話:(03)5683-5111
各種手続き用紙のご請求は下記のフリーダイヤルをご利用ください。
0120-24-4479
ホームページ http://www.ufjtrustbank.co.jp/

株式会社NTTドコモ

表紙のイラストは、クレジットカードを持ち歩かなくても、携帯電話でお買物ができるドコモのサービス「VISAッピ」をイメージしたものです。お財布代わりのケータイとして、ますます便利にご利用いただけます。詳しくは本誌P.6をご覧ください。